

分散調剤システムによる業務効率化 (第3回)

株式会社山梨薬剤センター 薬剤課長 廣瀬 徹

<過誤防止について>

分散調剤を始めてから8年、現在は投薬日数長期のため、平均待ち時間が長くなっています。少しでも短縮するため、最終確認時、担当者を決め処方内容については専門で行ったり、処方内容が多いものや小児等散薬があるものについては、処方入力時に先に入力・データ送信したり、棚でのトレーを区別したりと工夫しています。

現在も常にTOSHOの方と話し合いをしながら、今後の展望を相談しています。

錠剤分包機のカセットの置き間違い防止シール、散薬の他薬品との秤り間違いチェック等以前から導入はしていますが、昨年は、補充チェックシステムを導入しました。錠剤カセット及び散薬ビンに貼ってあるバーコードと薬の本体のバーコードを読ませ、一致し

た事を確認して補充します。いつ誰が補充したか判ると共に、エラーがあった場合にはPC上に表示されます。薬剤師が多くなると誰が補充したかも明確にすることが難しく、特に、患者様の混んでいる時など忙しい時の補充は間違いが多く起こるので、このシステムは当薬局では役立っています。現在は医療過誤等が大きく問題になってしまいますので、少しでもリスクを減らす努力や防止策を考えながら、システム機器で防止出来る事は検討の上、導入したいと考えています。

現在、調剤機器の見学等に全国から当薬局にお越し頂いていますが、他薬局の方々と話をする中でいろいろ情報交換が出来、参考になることが多いので今後も数多くの薬剤師の方々に当薬局を訪ねて頂けたら幸いです。